

在宅

## 医療と介護の今

## 今号の内容

- 令和5年度 第2回在宅医療地域ケア会議の開催 ..... 1面
- 在宅医療地域ケア会議 新しいリーダー医師はこんな方 ..... 2～3面
- 映画『人生をしまう時間』の上映と講演会を開催 — 令和5年度 在宅医療推進フォーラム ..... 4面
- 在宅療養ブックを発行しました、在宅医療相談調整窓口のご案内 ..... 4面

## 令和5年度 第2回在宅医療地域ケア会議の開催

令和5年度の2回目となる在宅医療地域ケア会議\*（以下、「地域ケア会議」という。）が11月から3月にかけて7圏域で開催されました。今号では令和5年11月に開催された高円寺圏域と荻窪圏域における地域ケア会議の様子を報告します。

● 多職種連携ICTシステムの基礎を実践で学ぶ  
— 高円寺圏域（11/17開催）

【テーマ】事例で理解を深めるバイタルリンクの活用法  
～杉介ネットで広がる多職種連携～

【概要】前回（9/21開催）に引き続き、多職種間で情報共有を行うための多職種連携ICTシステム「杉介ネット（バイタルリンク）」を用いて、老老介護の事例をもとに、情報の入力方法などを学びました。特に、メッセージを他職種に伝え、共有する「連絡帳」機能については、多くの時間を割いて、実際にメッセージを書き込んだり、処方箋の画像を添付したほか、患者のバイタル（体温、血圧、脈拍などの数値）を入力しました。また、オンライン（Zoom）による担当者会議の設定方法についても説明を受けました。

参加者からは「操作が簡単で分かりやすかった」（訪問リハビリ）、「画像を皆で確認できるのは便利」（薬剤師）、「情報やメッセージが送られてきてもチェックできない時間帯はあるが、多職種で共有ができるのはすごいと思う」（訪問看護）などの感想が聞かれました。



● 各職種の「困りごと」を共有  
— 荻窪圏域（11/27開催）

【テーマ】連携成功へのキーポイントとなる「相互理解」！  
～他の職種のこと、知ってる？～

【概要】前回（9/25開催）と同じテーマを設定し、医師、訪問介護、通所介護、ケアマネジャーの4職種のパネリストから、仕事の内容のほか、できないこと・困ったこと、知りたい情報や他職種へのお願いごとなどについて話を聞きました。

「できないこと・困ったこと」では、「診ていた患者が有料老人ホームに入居した場合、本人や家族が希望しても、診療の継続をホーム側から拒否されることがある」（医師）、「利用者宅を訪問中に医師や看護師らが来てバッティングした」（訪問介護）、「デイサービスの送迎で、利用者の起床介助もしなければならないケースがある」（通所介護）、「病院でやっていたリハビリを退院後も介護保険でやってほしいと頼まれる」（ケアマネジャー）などの声が聞かれ、多職種連携に向けた問題点等を共有しました。



\* 医療と介護に携わる関係者が、圏域ごとに集まって課題に向き合う会議体

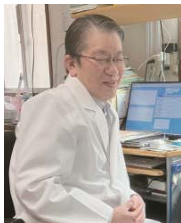
令和5年度に新しく就任したリーダー医師を取材し、ご自身の

## 医師の参加を増やしたい

井草園域：海老澤俊浩 医師（海老沢医院）

### 自己紹介

元々医師になるつもりはなく、高校生の時は機械工学をやりたいと思っていました。しかし、その頃に理工系の就職難があり、「工学部は就職できない」と言われていたので、大学進学は紆余曲折を経て医学部にしました。大学病院勤務時代の専門は神経内科でした。その関係もあり、大学からの派遣で神奈川県総合リハビリテーションセンターに10年近く勤務していました。その後は父親が開業した海老沢医院で一緒に10年ほど診療し、後を継ぎました。健康上の理由もあって在宅診療は行っていませんが、地域ケア会議のリーダー医師として役割を果たしたいと思います。



### 趣味

精神科医でクラシック音楽好きの妻の影響もあり、ピアノリサイタル、オーケストラのコンサートにはよく行きます。ハイシーズンの10月、11月には週2回ということもあります。作曲家はショパンやブルックナーが好きです。本を読むことも好きです。多くは小説です。コロナ禍の前には大江健三郎やカズオ・イシグロのサイン会に行ったこともあります。



↑園医を務めている幼稚園児からの感謝状

### 地域ケア会議について

地域ケア会議は、医師の参加が少ないことが課題です。1月の組会（組＝区医師会の地域別組織）で参加を呼びかけました。これはリーダー医師としての役割の一つだと認識しています。2月の地域ケア会議のテーマでは、具体的なサービス内容がよく分からない「訪問リハビリ」を取り上げました。今後も、テーマとして取り上げたものについては、ある程度の課題の解決策やヒント、相談先などが提示できればと考えています。

## 在宅医療・医業経営にDXのパワーを

西荻園域：田中公孝 医師（杉並PARK在宅クリニック）

### 自己紹介

病院での研修医時代に、高齢者が緊急搬送されてきて、胃ろうが造られて施設へ入所という流れを目の当たりにしました。自分は、こうならないための予防に携わる仕事がしたいと考えて、地域医療の専門医を志し、家庭医療専門医の資格をとりました。在宅の患者さんは一人ひとり違う生活背景がありますので、できる限りの聴き取りをして、オーダーメイドの医療を提供するよう心がけています。得た情報をもとに電子カルテ・アプリで管理してスタッフと共有しているのですが、彼女たちからはよく、「情報の渦が…（凄い）」と言われます（笑）。管理は大変ですが、よりよい療養方針、ACPを組み立てるのに有効です。



### 趣味

DX（デジタルトランスフォーメーション）はクリニック経営の一環として取り組んでいるのですが、もはや趣味の領域かもしれません。例えば、スタッフの誰かが休んだり、交替したりしても円滑に業務ができるように、マニュアルを作っています。コピー機の設定から、保険情報の登録方法、福利厚生の規約まで1000以上の項目をコツコツ書いてきました。先日、当院のDXがクリニック経営の雑誌で紹介されて、それを見た方が見学に来られました。



↑作成したマニュアルの一部

### 地域ケア会議について

前任の服部先生の頃から一緒に取り組んでいますので、企画に携わって通算3年目です。始めた頃は、病診連携や地域内の連携どころか、対立構造のように感じる場面もありました。しかし、病院の地域連携室をはじめとした様々な方に地域ケア会議に参加してもらい、話し合いを重ねるうちに、互いの理解が深まり、空気が随分変わってきた気がします。フラットな関係で話し合えるようになりましたので、来年度は、地域のいろいろな課題を扱い、一つひとつ解決への流れを作っていきたいと思っています。

こと、地域ケア会議のことなどについて話をお伺いしました。

## 職種間連携の障壁を減らすために

荻窪園域：志知隆雄 医師（康明会荻窪クリニック）

### 自己紹介

神経内科医とリハビリテーション科医として新潟、福島、東京で多くの患者さんやご家族に関わり、さまざまな障害がある方々の診療に当たってきました。初台リハビリテーション病院に従事したほか、元浅草と成城にある関連職種が揃った在宅総合ケアセンターで、本格的に在宅診療に取り組みました。2020年4月から、杉並区で在宅医療に携わっています。診療では、問診の重要性を説いた母校、新潟大学の椿忠雄教授（神経内科学）の「問診 日頃心にとめている十カ条」をいつも心がけています。



### 趣味

今はアコースティックギター、水泳、ジョギング、寄席通いです。ギターは以前の職場のデイサービスでギター演奏をする介護スタッフに憧れて始めました。月3回レッスンを受けています。水泳は自宅マンション内のジムで、日曜日などに泳いでいます。ジョギングは日曜日早朝のルーティンで、自宅から荻窪の診療所までを小一時間かけて往復します。寄席は上野広小路亭で神田伯山氏の講談を聞いたのがきっかけです。林家今丸さんの切り絵と扇子を手にポーズを決めていただきました。時間を作って月1回は新宿末廣亭などに行っています。



↑林家今丸さんの切り絵と扇子を手にポーズを決めていただきました

### 地域ケア会議について

多職種連携の障壁となるのは、「知識」（職種ごとの専門知識）、「距離」（連携する事業所間の距離）、「時間」（連絡を取り合う時間）だと思います。これを打破するためには、一人ひとりが自身や他者に興味や関心を持ち、刺激し合うこと、スキルを高め合うこと、プロとして各々がリーダーとなることなどが重要です。そして、障壁を減らしていくのが地域ケア会議の存在意義だと考えます。今後は「シャドウワーク」（通院同行、救急車への同乗など報酬が発生しない仕事）の問題も話し合いたいと思っています。

## いつも目の前のことを頑張る

高井戸園域：小泉健雄 医師（浜山山ファミリークリニック）

### 自己紹介

かつて父が皮膚科医をやっていた土地で、2018年にクリニックを開業しました。外来が中心ですが、休診日には訪問診療もしています。患者さんが私に診て欲しいと言ってくれる限りは、在宅になっても診るべきだと考えているからです。



子どもの頃は、親から医者になることを強いられて、好きだった野球もやらせてもらえず、高校生になるくらいまで何事にも無気力でした。とても太っていたのですが、あるとき夏バテで食べられなくなって5キロ痩せました。これは面白いと思って、減量に取り組んでみたら、25キロも減らしました。「そうか、やれば成果が出る!」と大きな達成感がありました。何事にも能動的に取り組めるようになったのはそれからです。常に目の前のことを頑張る、という自分の精神を表す言葉として、トルストイの「光りあるうちに光の中を歩め」を座右の銘としています。

### 趣味

妻も眼科医として同じクリニックで働いているので、3人の子育てと家事を2人で分担していますが、それが自分にとって趣味のようなものです。次男は地域の少年野球クラブに入っており、日曜日にはその練習にたっぷり一日付き合っています。



↑クリニックの待合室にも少年野球のポスターが貼ってあります

### 地域ケア会議について

今年度になってリーダー医師の役目をいただくまでは、地域ケア会議に参加したことはなかったのですが、不安はありませんでした。患者さんごとに答えが違うのが在宅医療です。その難しさを知っている方々と共に一つのテーマを話し合うのは面白く、さらにそれが地域の役に立つのであればとても良いことだと思います。令和6年度は、新しいテーマを掘り起こせたらと考えています。

## ■ 映画『人生をしまう時間(とき)』の上映と講演会を開催 ―令和5年度 杉並区在宅医療推進フォーラム

令和6年2月23日、座・高円寺において、杉並区在宅医療推進フォーラムを開催しました。訪問診療医と在宅患者やその家族との関わりを記録したドキュメンタリー映画『人生をしまう時間』を上映した後、映画に出演している小堀鷗一郎医師が講演しました。

小堀医師は、東京大学医学部附属病院や国立国際医療研究センター病院で外科医として約40年間勤務した後、現在は埼玉県の高野内病院で訪問診療に従事しています。



講演では、在宅医療の現状や今後についての話がありました。小堀医師は、「人間は老いて死ぬもの。長く生きることより、どう生きるか、どう死ぬかが大事」と話し、いつまでも元気で過ごすことのみを重視し、死を遠ざける昨今の風潮に疑問を呈していました。また、「死ぬ時くらいは好きにさせて欲しい」と言って、医療行為も訪問介護も拒んでいた患者に対応した事例などが紹介されました。参加者からの「延命治療につい

てどの程度考えておくべきか？」という質問には、「延命治療をすることが良いか悪いかは場合による。その時が来たら、本人と家族と医師で決めればよいのではないか」との回答があり、さらに、「人手不足以外に在宅医療の課題は？」との質問には、「格差社会が拡大する中、困窮して医療を受けることができない人の最期をどうするかが課題である」と回答しました。映画でも垣間見られた小堀医師のユーモアが会場を和ませ、折々に笑い声が広がる講演会となりました。



### 在宅療養ブックを発行しました

区内で在宅医療を提供する医療機関（医科・歯科・薬局）と、訪問サービスを提供する介護事業者等の情報を掲載しています。是非ご覧ください。

#### 【配布場所】

在宅医療・生活支援センター（ウェルファーム杉並）、  
介護保険課（杉並区役所）、ケア24 等

※インターネット版は右二次元コードからご覧になれます。



### 在宅医療相談調整窓口のご案内

在宅療養をサポートするため、専門相談員が相談内容に応じて、必要な情報提供や関係機関との調整を行う「在宅医療相談調整窓口」を、在宅医療・生活支援センターに設置しています。お気軽にご相談ください。

【電話】3391-1380

【受付時間】月～金曜日（祝日・年末年始を除く）

午前8時30分～午後5時



★次号は令和6年6月発行予定です。

この通信で取り上げてほしいことなどがございましたら、右の二次元コードからお知らせください。

